

図 1 The serum level of β_2 -microglobulin in MCLS patients

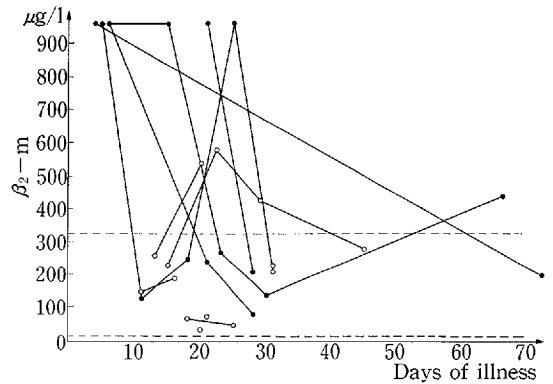


図 3 The urine level of β_2 -microglobulin in MCLS patients

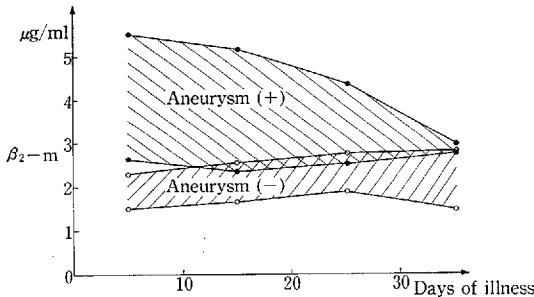


図 2

とも相関関係を認めなかった。

【考 察】

血中 BMG はほとんど日内変動が認められず、また、感染症などでは大部分が正常で、SLE のような免疫学的異常のある炎症性疾患で上昇するとされている。川崎病でも高率に上昇しており、しかも、病初期より上昇しており回復期には正常化し、また、冠動脈病変のあった群はなかった群に比して有意に高値を示すことから、川崎病における炎症のパラメーターになりうるのではないかと考えられる。今回検討した他の検査値との間に相関はなかったが、矢田らの報告したサブレッサーT細胞活性と類似した動きを示している印象をうける。今後、T細胞サブセットとの相関について検討する必要がある。

川崎病の冠動脈拡張の早期変化について

日本大学小児科 大 国 真 彦
岡 田 知 雄
豊 田 博 史
原 田 研 介

【目 的】

心エコー図断層法を用いて、川崎病における冠動脈拡張(瘤)の変化について検討するため。

【対 象】

昭和56年6月から12月までの間に川崎病と診断され、当科へ入院した患者。この間に入院した川崎病患者数は

13(男9,女4)で、これらの者に対して少なくとも週1回は心エコー図を施行した。

【結 果】

表1は、冠動脈拡張の早期消失例を比較したものである。症例数は合計4で、出現頻度は4:13であった。但し症例4は、LCAの拡張は縮少し続けたが、なお存在

表 1 冠動脈瘤（拡張）の早期消失例の比較

Aneurysm										
Case	Year	Sex	Score	Type	Location	Days from onset			ECG	Others
						First found	Max. size	Disappear		
1. S. K	11m	M	5	Spindle	LCA	11	20	31	IRBBB	—
					RCA	11	20	40		
2. O. M	6m	M	4	Spindle	LCA	7	14	35	IRBBB	—
3. M. K	7y4m	M	5	Spindle	LCA	13	20	27	—	—
					RCA	13	20	27		
4. I. H	3y	M	6	Spindle	LCA	20	20	—	—	Pericardial effusion
					RCA	20	20	36		

Score: Asai's Scoring System

し一方、RCA の拡張は完全に消失した例である。4 例の重症度は、浅井・草川のスコア 4～6 点で軽症から中等症に属する。尚このような早期消失例と臨床症状及び一般検査所見との間には、特に有意の関係は見出せなかった。

冠動脈の拡張については、拡張の型は全例紡錘型であった。最初に発見出来た病日は、第 7～第 20 病日、平均第 13.5 病日。最大の拡張を示した病日は、第 14～第 20 病日、平均第 19.1 病日。また早期の拡張消失病日は、第 27～第 40 病日、平均第 32.7 病日であった。尚症例 1 では、

最初にエコー輝度の上昇がみられ、症例 4 では、心膜液貯留を合併していた。

〔考 案〕

心エコー図断層法を用いて経過を追跡した川崎病患者において、冠動脈拡張の早期消失例を 4 例経験した。出現頻度も 4 : 13 と比較的高頻度と思われる。これらの症例は、他の川崎病患者と較べて、臨床症状及び一般検査所見の上で特に差はないように思われた。今後このような症例が如何なる変遷をたどるか、慎重に経過を観て行く必要があると思われる。

断層心エコー法による冠動脈狭窄性病変の診断

久留米大学小児科 加 藤 裕 久
一ノ瀬 英 世
松 永 伸 二

最近断層心エコー法によって冠動脈瘤病変を高率に診断できるようになったが、川崎病心後遺症として問題となる冠動脈の狭窄性病変の断層心エコー診断はまだ十分とはいえない。このため私どもは冠動脈の狭窄性病変を断層心エコー法でどの程度診断できるかを検討してみた。

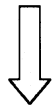
対象は断層心エコー検査を受けた川崎病患者で、冠動脈造影検査の結果冠動脈狭窄所見の得られた 15 名を対象とした。また、3 ヶ月から 2 才までの正常児 30 名を正常コントロールとした。

〔方 法〕

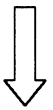
断層心エコー装置は東芝製 Model SSL-53M を用い、探触子は 5MHz の linear scanner を用いた。患児を仰臥位あるいは軽度左側臥位とし、大動脈の短軸断層面を基準面として左冠動脈主幹部を確認した後、探触子を反時計方向に回転していくと右冠動脈をみる事ができた。

〔結 果〕

選択的冠動脈造影検査で冠動脈の狭窄性病変がみられ



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕

心エコー図断層法を用いて、川崎病における冠動脈拡張(瘤)の変化について検討するため。